

2021年度事業報告

(2021年4月1日～2022年3月31日)

NPO法人フードバンクふなばし

NPO法人フードバンクふなばし(以下FBF)はフードバンク事業に加えて、行政や保健所、スクールソーシャルワーカー等と連携して食のセーフティネット事業を実施している。

1. フードバンク事業報告

フードバンク事業は未だ食べられるのに様々な理由で廃棄される食品を、個人や企業から寄付してもらいそれを必要とする子育て支援団体や子ども食堂等に無償で提供する活動である。循環型社会への取り組みが世界的規模で課題となっており、食品ロス削減に取り組み、地域に食品の循環を作り出すフードバンクが注目を集めている。

(1) フードドライブの実施

FBFでは年間を通して、個人から持ち込みや郵送にて寄付受けたり、店舗に設置しているきゃろくんBOXに食品を入れてもらう等様々な形で食品を集める活動を実施している。

食品寄付量推移

(単位キロ)

	個人	きゃろくんBOX	企業・団体	合計
2021年度	4,320	11,097	15,835	31,252
2020年度	2,354	3,122	11,928	17,405
2019年度	711	1,786	3,043	5,540
2018年度	716	1,295	2,853	4,864

①個人からの持ち込み

食品ロス削減への取り組みが様々な形で行われるようになり、人々の関心の高まりを実感している。問い合わせ件数、寄付量共に増加している。宅配便にて食品が寄付される他、直接事務所に持参する方も多い。

②きゃろくんBOX (常設型寄付ボックス)

きゃろくんBOXは船橋市および近隣市のスーパー等に常設されている食品寄付ボックスである。2021年度より市内のファミリーマート店舗に設置が始まった。またイトーヨーカ堂船橋店の設置も準備中である。スーパー等のフードドライブの関心は高く、企業において食品ロス削減およびSDGs活動への取り組みが盛んになっている。今年度は食品回収のスタッフが増員し定期的回収が可能となってきた。市川市の店舗内に設置していたボックスは、新規に発足した市川市内のフードバンクに譲渡し、地域での活用を促進している。

③企業・団体、農家からの寄付

引き続き企業や自治体の災害備蓄食品や食品メーカーから余剰食品の提供があったほか、企業内で実施したフードドライブの食品の寄付を受けるケースが増えてきた。フードドライブが個人単位から職場や企業単位、地域単位で広がっている。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で米の流通量減少が続いており、今年度もJAいちかわ、JAちば東葛から米の寄付

があった。農家等から野菜の寄付に関する問い合わせも増えており、一部はパントリーピックアップ(会場に来てもらい自身で食品を選んで持ち帰ってもらう)にて活用している。今後市場に出荷できない野菜を有効活用する仕組みが必要となってくると思われる。

2021年度食品等を寄付していただいた企業・団体一覧（順不同）

JR東日本千葉支社、バルシステム千葉、京葉管理工業千葉営業所、湊町地区社協、フードバンクちば、習志野台団地自治会
三和商事(株)、NPO法人ONE TEAM、昭和産業(株)、船橋市、中核支援まるっと、JAいちかわ、フードバンクポポロ、船橋市
農水産課、千葉ジェッツふなばし、NTT東日本千葉西支店、ふなばし子ども食堂ネットワーク、大和ランテック(株)関東支店
あいおいニッセイ同和千葉北支店、損保ジャパンパートナーズ(株)京葉支店、農家の直売ベジリズム、石井食品(株)、船橋市
社会福祉協議会、せいしん式典、生活学校みさき校、京葉食品コンビナート協議会、生活学校やくえんだい校、明治安田
生命船橋支店、アミティ市原子子ども食堂、全国調理食品工業協同組合、日本野鳥の会千葉県、明光ネットワークジャパン(株)
市川フードバンク、食べる応援6年4組、キタナラ子ども食堂、みんなの家こっこ、タキガワコーポレーション(株)、大同生命
保険(株)千葉西支社、大東建託(株)船橋支店、コープみらい、生活クラブ生協、フードバンク推進協議会、西船橋スカイハイツ
自治会、(有)ドレミ、宮本在宅支援センター、デジタルガレージ(株)、ファミリーマート東船橋店、デジタルガレージ(株)
カルゲン(株)、(株)NISSHO、Wings、東銀座印刷出版(株)、松島病院、パラマウントペット、船橋京葉ライオンズクラブ、森の
食堂子ども食堂、船橋中央ライオンズクラブ、習志野台みゆき町会、フコク生命千葉支社外野倶楽部、船橋自然に親しむ会
カフェサント子ども食堂、(有)スパイスホーム、(株)美十、社会福祉法人ローゼンヴィラ藤原、JAちば東葛、みやぎ台自治会
モグモグキッズファクトリー子ども食堂、船橋市消防局、

④船橋市との連携

船橋市資源循環課と連携したフードドライブが定期的実施され定着している。回収拠点として市内の全公民館を利用出来ることで市民の利便性も確保できている。更に船橋市食育展では保健所地域保健課とも連携、フードドライブが食育の一環として位置づけられている。

（２）地域の団体への食品提供連携

フードドライブで集まった食品は、地域の子育て支援団体や子ども食堂等に提供し活用されている。地域で集められた食品を必要とする人に届け、食の循環を作り出す事が、フードバンクの使命である。

支援実績推移

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
支援件数	41回	74回	174回	269回
支援重量	1,110kg	1,742kg	8,151kg	10,099kg

①子育て支援団体への食品提供

主な支援先団体は子ども食堂であり、船橋市の他、習志野市、市川市、白井市、市原市、君津市の子ども食堂にも提供している。市内の子ども食堂は20か所を超え、その多くがFBFを活用している。また、フードバンクが存在しない地域の子ども食堂等の市民団体との連携も進んだ。2021年9月からは新たに市内の母子自立支援施設「青い鳥ホーム」への定期的な食品提供を開始した。

②千葉県内のフードバンクとの連携

県内のフードバンク、ちば、とうかつ草の根、松戸、市川とは定期的に情報交換、食品の共有を行っている。それぞれ取り扱う食品に特色があり、それを融通し合うことは互いのメリットとなっている。

2. 食のセーフティネット事業報告

長引く新型コロナウイルスの流行の影響で、子育て家庭（特にひとり親家庭）を取り巻く環境は厳しい状況が続いていることを痛感している。食のセーフティネット事業は、配送による個人支援、毎月1回、事務所に食品を取りに来てもらうパントリーピックアップの二本立てで実施した。個人家庭への支援件数は年間779家庭となり件数が伸びている。背景としては、児童家庭課、家庭児童相談室、保健と福祉の総合相談窓口さーくるの他、保健所、市のスクールソーシャルワーカーとの連携が進んだことも要因である。パントリーピックアップは、開始2年目となり利用者が大幅に増加した。それに対応すべく2022年1月からは会場を増設。2月各会場ともに予約制にて実施している。

支援の推移

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
配是件数	回数	108回	265回	507回	779回
	重量	1,650kg	3,388kg	7,809kg	13,609kg
パントリー	回数	—	—	71回	379回
	重量	—	—	886kg	4,626kg

(1) 配送による個人支援

①個人支援の状況

2020年4月の緊急事態宣言以降、支援を必要とする子育て家庭が増え続けている。船橋市児童家庭課ひとり親支援窓口、家庭児童相談室、保健と福祉の総合相談窓口さーくる、保健所保健師、スクールソーシャルワーカーとの連携を強化し支援を希望する家庭の事情に合わせて食品を選び提供している。支援は原則として月1回、3か月間である。配送する1回の食品の重量は、1家庭あたり15から20キロであり、家族構成や子どもの年齢に合わせて食品を選んで箱詰めするというきめの細かい作業がスタッフにて行われている。特に子の年齢が高い家庭には、米を多く入れたり、タンパク質を含む食品を多く入れる等の工夫をしている。箱を開けた時に子どもが喜ぶようお菓子を箱の一番上に詰めたり、手書きのメッセージを添えて利用者に寄り添った支援活動を心掛けている。子どもの多い家庭も少なくなく箱の重量が25キロを超えることもある。コロナウイルス感染拡大による休業、失業、離婚、病気や精神疾患等本人の健康上の問題、不登校の子どもがいて就労できないケース等々、支援を必要とする家庭は様々な課題を重複して抱えており、単に経済的に困窮しているだけでないことがわかる。それらに加えて、子の進級や進学によって一時的に支出が増えることや、学校の長期休暇では食費増加で節約しなければならない背景も見えて来る。このように多様な課題を抱えた子育て家庭を支援するためには、子育て家庭関係機関との連携、情報共有、フードバンクとして食の支援を安定的に実施できる体制が不可欠であると実感している。

②返ってきた声

別紙

(2) パントリーピックアップによる個人支援

2020年4月からひとり親家庭を対象として取り組んできたパントリーピックアップは、地域の支援者から卵や野菜を寄付してもらい利用者に届けることができている。障がいを持った方々が栽培した野菜をひとり親に届ける仕組みは地域における支え合いが形になったものである。パントリーピックアップ開始2年目にして利用者が増加し2021年12月には金杉会場に1時間半に45名が集まるといった状況となった。増え続ける利用者に対応すべく2022年1月からは市の施設を借りて習志野会場を増設した。さらに2月からは予約制へと移行し実施している。多種の食品をそろえるパントリーピックアップは利用者から好評を得ているがその一方で、利用者が固定化する傾向があり、今後状況をみながら活動内容を整理していく必要があると考えている。

昨年に引き続き家庭課母子父子自立支援員の参加により会場にて相談も同時に実施している。

(3) 高校生支援

近年定時制高校を中心に、教員、教員OB、大学と協働で校内カフェの運営の取り組みが進んでいる。県内でも、市川工業、生浜、大宮高校等で取り組みが始まっており、9月より不定期ではあるがFBFも食品提供を実施してきた。また市内の全日制高校でも食品支援が必要な生徒が少なからず居ることが明らかになりつつある。今後高校生への食品支援の取り組みが進むと思われる。なお本件については一回の支援量も300人分と多く、全国フードバンク推進協議会からの食品寄付を充てている。

3. フードバンクの普及・啓発事業報告

フードバンクは食品ロスに貢献すると共に、生活困窮者を支援するという福祉的事業も行っている多面的な活動である。より多くの市民や企業から支持してもらうため、そして必要な方へ情報が行き届くように広報紙、ホームページやSNSを活用して情報発信をしている。

(1) かなすぎレター創刊

2021年10月より新規に広報紙「かなすぎレター」を発行し、食品の寄付者、資金の寄付者、会員、市役所職員等々に配布して活動報告をしている。かなすぎレターを受け取った方からは「活動の様子がよく分かった、感動して涙が出ました」という感想をもらっている。かなすぎレターがきっかけで再び支援をいただくこともある。今後年4回の発行を通じて活動をわかり易く伝えていきたい。

(2) 食品ロス削減に向けたリーフレット配布

10月の食品ロス月間に、船橋市と船橋市教育委員会の後援を受けてリーフレット「食品ロスってなに？」を作成し、約54,000枚を市内の小学校児童、中学校生徒、教職員に配布した。この事業は来年度以降も実施していくこととしたい。

(3) 学習会の開催

2021年3月19日、船橋市北部清掃工場余熱利用温浴施設「メグspa」にて、フードドライブと同時開催で「フードドライブってなに？」という座談会を開催した。スタッフによる寸劇やクイズを取り入れ、フードドライブを知ってもらう取り組みとなった。

(4) 講演活動

2022年1月29日船橋市男女共同参画フェスティバルにて「フードバンクの活動からみるひとり親の家庭の現状」という題で講演をした。現在のひとり親家庭がおかれている困難な状況を参加者に伝えた。参加者からは「支援の具体的な内容や利用者の声を聞くことができとても良かったです。改めて今自分に何が出来るかを考えたいと思います」等数多くの感想をもらっている。困難に向き合っているひとり親家庭やフードバンクの活動を知ってもらう機会となった。

(5) 視察の受け入れ（活動報告参照）

食品ロス削減に貢献し、生活困窮者支援を行っているフードバンクの存在が目撃された一年であった。活動への理解の促進、普及へとつながるため可能な限り積極的に受け入れていきたい。

(5) テレビ、ラジオ、新聞、船橋市広報への掲載（活動報告参照）

(6) 地域におけるその他の活動

ふなばし子ども食堂ネットワークミーティング
定時制高校生支援プロジェクト
県内生協と県内フードバンク合同フードドライブ実行委員会
NPO法人ハイティーンズサポート千葉との協働（定時制高校）

4. 運営状況

2018年5月に任意団体として発足したフードバンクふなばしは、運営基盤の足固めのため2020年12月にNPO法人化した。社会的な注目とともに支援活動へのニーズも高まっており、安定的な事業の継続が必須となっている。

(1) 食品の管理について

2020年8月の事務所兼倉庫の移転以降、食品の搬入搬出の利便性が向上した。食品収納棚の配置を工夫し効率的に作業を行っている。食品の安全確認として①食品を受け入れ時、②食品発送時に包装の破損の有無の確認や賞味期限をチェックしている。また定期的に棚卸し作業を行い、賞味期限の近い物から活用する等し期限切れによる廃棄を最小限に抑えるよう努めている。安全で安心な食品を提供できるよう食品の衛生的な管理にスタッフ全員で取り組むことが重要である。

(2) 活動スタッフについて (のべ人数)

常勤スタッフ	2名
発送作業スタッフ	4名
仕分け・梱卸し作業スタッフ	3名
食品回収スタッフ	4名
広報活動スタッフ	2名
事務および会計スタッフ	4名
パントリーピックアップ時スタッフ	6名

(3) 個人情報取り扱いについて

- ・個人情報取り扱いの覚書への署名。
- ・個人支援カルテ等の保管は鍵付きのロッカーにて行う。

(4) 活動費・ガソリン代について

- ・有償ボランティアに時給500円を支払う。
- ・代表・副代表に月額70,000円を活動費として支払う。
- ・食品回収時や業務にて自動車を利用する際のガソリン代については、走行距離に応じて支払う。

(5) 会員について

①正会員 (2022年3月31日現在)

26名

②賛助会員 (2022年3月31日現在)

27個人 159口 21団体 523口

(6) 事業資金の確保と財政基盤の確立

市民および民間企業からの寄付、助成金をベースに事業を進めてきた。2020年8月より発生している事務所家賃が大きな負担であるが、今年度は農林水産省の補助金を申請し9か月分を賄うことが出来た。配送料については船橋市地域福祉課と協議を重ね、2022年度よりフードバンク活動に対する助成金が50万円予算計上された(継続的助成金ではない)。人件費については、遅れながらも概ね年度内に支給できた。増え続ける食品の寄付量と支援量に対応するためには、スタッフの増員および活動時間の増加が予想される。更には、手狭になりつつある事務所の移転や精米機の買い替え等も視野に入れていく。安定的な収入源となる賛助会員の拡大に努めたい。

(7) 保険について

- 今年度NPO活動総合保険(あいおいニッセイ同和損害保険)に加入済。
- ・賠償責任保険(身体財物、管理財物、人格権侵害)
事故対応費用
見舞い費用
- ・障害保険(死亡、後遺障害、入院、手術、通院)